

さば和則



本年もお世話になりました！

県政活動報告

2016年の記録



◆◆◆◆◆ 佐波和則の質疑 ◆◆◆◆◆

一般質問

2月定例愛知県議会において、メンタルヘルス対策の強化・充実ならびに下水道事業における汚泥処理について質問を行いました。

メンタルヘルス対策の強化・充実

Q 企業への取り組み・支援とその成果について

県として周知啓発や企業に対し具体的な助言・指導を行う産業医等の専門家を派遣するとともに、情報提供資料の作成・配布や研修会の開催といった取り組みの支援を行ってきました。メンタルヘルス対策を実施する県内中小企業の割合は平成25年度には67.3%（平成22年度47.8%）となっており、徐々に浸透してきていると考えています。

Q ストレスチェック制度の今後の展開

努力義務とされている従業員50人未満の事業場を含め、ストレスチェック制度を積極的にPRしていきます。そのために職場のセミナーでは主なテーマをストレスチェックの実施方法とした上で、来年度新たに「心の健康経営支援フォーラム」を開催し、中小企業経営者の意識向上を図っていきます。

Q 県職員と県立学校の教職員におけるストレスチェック制度の実施について

県では全職員が調査票により受検し、それをもとに産業医・保健師が高ストレスと判定した職員に対し外部の医師による面談等を実施します。教職員においては、ストレスチェックの結果、面接指導対象となった教職員に対して学校医が面接を行った上で、必要に応じて専門の医療機関等への受診につなげていきます。

下水道事業における汚泥処理について

Q 下水汚泥の処理やエネルギー資源としての活用における取り組み状況と展望について

平成26年度においては、県内11箇所の流域下水道から発生した約18万3千トンの下水汚泥の内、脱水汚泥のまま外部搬出する約16%を建設資材、農業資材、炭化燃料として活用しています。さらにバイオガスについて、汚泥を焼却する燃料や発電に利用する計画であり、現在施設を建設しています。



Q 衣浦西部流域下水道における共同汚泥処理事業の事業内容と事業効果について

衣浦西部浄化センターでは2基の焼却炉の更新時期に合わせ2段階で共同汚泥処理施設を建設する計画です。また、事業効果については、汚泥を1箇所に集約して処理することによりスケールメリットが発生し、個別に処理した場合と比べ約70億円の削減ができると試算しています。



議案質疑

今年度に策定された、農林水産業県内総生産の全国シェアを0.3%引き上げることを主要目標とする「食と緑の基本計画2020」において、目標達成に向けた取り組みについて質しました。

Q 目標達成に向けた花の需要拡大のための取り組みについて

花の魅力を伝える花と緑のイベントの開催や、暮らしの中に花を取り入れる「花いっぱい県民運動」を引き続き展開します。また、男性から女性へ花を贈るフラワーバレンタインなど、新たな花贈り文化の定着を支援・促進していきます。さらに、海外見本市や商談会などへの出展を支援し、国外需要の開拓にも取り組んでいきます。

Q 平成29年度以降のイベント開催予定について

平成28年度の「あいち花フェスタ」の開催にあたっては、海部地域の全市町村やJA、花き生産団体等と実行委員会を組織して開催していきます。平成29年度以降についても、地域からの提案等を踏まえ、県内各地での開催を検討していきます。